

## 松江キャンパス

平成21年度 公立大学法人島根県立大学  
地域連携推進センター松江キャンパス運営会議 名簿

(任期:H21. 4.1~H22. 3.31)

職名	氏名	備考
教授	山下 由紀恵	・地域連携推進センター副センター長
助教	籠橋 有紀子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(高大連携)
教授	森山 秀俊	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(教育機関連携)
教授	磯部 美津子	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(公開講座連携)
講師	塩谷 もも	・地域連携推進委員会委員 ・地域連携コーディネーター(公開講座連携)
管理課長	塩毛 利生	・事務局委員

松江キャンパス島根県立大学地域連携推進センター平成21年度事業概要  
ー地域をキャンパスに・キャンパスを地域にー

この度、平成21年度の松江キャンパス地域貢献活動を、以下のとおり公立大学法人島根県立大学の中期計画に従ってまとめました。

- 地域連携推進センターの設置（大学の自主的な地域貢献活動の総合窓口として、地域連携推進センターを設置し、地域貢献に関するコーディネート業務を実施する）  
【地域連携推進委員会の活動】報告
- 県民への学習機会等の提供（県民のニーズに対応した体系的かつ継続的な学習機会を提供する）  
【公開講座等の開催】報告、および別表「公開講座の状況」リスト  
【リカレント講座の開催】報告、および別表「講演会等」リスト
- 地域活性化に対する支援（企業や県及び市町村等と連携し、情報の提供、受託研究や共同研究の実施、政策課題の解決に対する支援及びNPO法人や民間団体等との協働による地域課題解決への支援を行う）  
【地域活性化支援ー企業・団体・NPO法人等との連携】報告  
【地域活性化支援ー自治体等との連携】報告、および別表「委員等」リスト
- 県内教育研究関係機関等との連携（地域の初等、中等教育や県内及び隣県の高等教育機関等と連携し、地域教育ネットワークの構築を図る）  
【教育機関等との連携ー保・幼・小・中・高・大の教育連携】報告  
【教育課程のための地域の施設・機関との連携強化】報告

平成21年度の活動では、「第4回食育推進全国大会」のような全国的な事業に対して、リーダーシップを取られた健康栄養学科教員をはじめとして、多くの教員、学生が参加する姿が見られました。松江キャンパスの社会貢献がさらに進んだ一年であったと思われま

す。また、あらゆる事業において、学生の熱心な参加姿勢がうかがわれました。圧縮されたカリキュラムの中、学校行事としての正課外ボランティアに、特に卒業を控えた2年生が熱心に参加するなど、地域貢献活動を通して専門性をさらに高めようと心がける姿には、学外の教育関係機関からも高い評価をいただきました。

地域貢献活動は、学生にとっても、社会へ踏み出す前の重要な第一歩となっているようです。今後は、地域貢献活動の教育的意義を検討しつつ、センターの活動を進めていきたいと考えています。

地域連携推進センター副センター長 山下由紀恵

### 【地域連携推進委員会の活動】

松江キャンパスにおいては、地域連携推進委員会が、教育機関との連携、その他高大連携、公開講座での地域貢献の3部門で委員により窓口を分担した。

- ・委員長（地域連携推進センター副センター長） 山下由紀恵（保育学科教授）
- ・幼保園のぎ・乃木小学校・湖南中学校・松江商業高等学校との三者連携を含む教育機関との連携担当委員 森山秀俊（保育学科教授）
- ・その他高大連携担当委員 籠橋有紀子（健康栄養学科助教）
- ・公開講座での地域貢献担当委員(1) 磯部美津子（総合文化学科教授）
- ・公開講座での地域貢献担当委員(2) 塩谷もも（総合文化学科講師）

### 【公開講座等の開催】

別表一覧「公開講座等の実施状況」に示すとおり、今年度は、公開講座「椿の道アカデミー」を11講座（95回：延べ参加者数2,925名）実施した。

このうち7講座は「まつえ市民大学」との連携講座であり、松江市との協定の成果が示された。

また、短期大学部出雲キャンパスとの連携講座「健康な家族のために」（5回：参加者数延べ97名）では、松江キャンパスを会場に両キャンパスの教員が連携して開催した。さらに、上記の連携講座のほかに「総合文化講座～広がる文化、広がる楽しみ～」において浜田キャンパスの教員1名（1回）を講師に招き、連携して実施するとともに、講座内容の充実を図った。

平成19年度の統合法人化以前から、公開講座「椿の道アカデミー」には毎年延べ3,000人近い受講者が参加しており、社会人の生涯学習の場として地域に定着している。今年度は過去2年に比較して講座回数が少なかったが、延べ3,000人近い参加者があった。統合法人化以前は、地域の自治体・教育委員会と連携して学外講座も実施していたが、生涯学習の社会基盤が整備されたため、近年は各団体への講師派遣に切り替え、本学主催の学外講座は実施していない。

平成21年度	95回講座	延べ参加人数 2,925人
平成20年度	122回講座	3,423人
平成19年度	110回講座	2,996人
平成18年度	学内96回講座	3,305人
	学外1回講座	62人（美郷町）
平成17年度	学内65回講座	2,434人
	学外10回講座	350人（浜田市・隠岐の島町）

今年度開催された講座のうち、三保サト子教授による「源氏物語入門」は、上記期間を含めて、長年継続して地域から受講者が集い、松江キャンパスで開催されてきたものである。三保サト子教授は、ほかに平成19年度までは「枕草子の世界」を、平成20年度から

は「ひかるの恋人たち～源氏物語の女性～」を、平成 21 年度からは「宇治十帖の世界～ひかり隠れ給ひてのち～」を開講し、多くの社会人受講者に向けて古典文学を講読し続けている。例年「源氏物語入門」に学ぶ受講者は、本学公開講座の受講者の中でも特に多く、平成 21 年度受講登録者は 183 人、9 回講座の延べ参加者数は 1,027 人であった。



「源氏物語入門」受講風景



また、公開講座では、昨年度に引き続き、講座「食と文化」で大学教員以外の学外講師を招き、地域文化に関する語りを講演記録として残す作業を行っている。

本年度は、本学元学長で NPO 法人出雲学研究所所長の藤岡大拙氏、元ホテル一畑総料理長で島根県調理師会副会長の中本喜代数氏を学外講師として招き、さらに学内講師として奥野元子教授を加え、第 1 回「出雲の祭事と食文化」、第 2 回「もてなしの心・今昔」、第 3 回「ふるさと食文化よもやま話－島根・三重編」の 3 回講座を開催した。この講座は「まつえ市民大学」連携講座の一つとして開催し、地域の食文化についての貴重な資料を作成した。受講者の方からは、「それぞれ趣が異なり、奥行きも深く、興味深かった」、「感激の 3 日間だった」など内容や今後の企画に期待する声を多く頂いた。受講者数は第 1 回 98 人、第 2 回 96 人、第 3 回 69 人であった。



第 1 回「出雲の祭事と食文化」受講風景



第1回講師 藤岡大拙元学長



第2回「もてなしの心・今昔」講師 中本喜代数氏

第2回講演より 糖尿病食(実演)  
焼いたブリに大根おろしソースをかけたもの



### 【リカレント講座の開催】

#### (1) 公開講座におけるリカレント講座

別表「公開講座等の実施状況」の通り、栄養士向けのリカレント講座として「栄養士のためのステップアップ講座（全33回）」を開催した。また、幼稚園・保育所の保育者向けリカレント講座として「早期発達支援ブラッシュアップ講座（全4回）」を開催した。

#### (2) 大学教育改革事業によるリカレント講座

短期大学部松江キャンパスおよび出雲キャンパスは、平成19年度から平成21年度まで、文部科学省委託「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業として、『周産期からの子育て支援拡充にむけた専門職再教育プログラムの開発』事業を実施した。両キャンパス看護学科・専攻科・健康栄養学科・保育学科教員の連携によって事業を推進するとともに、地域連携推進センターを拠点として、3キャンパス施設（大講義室・共同研究室・大学食堂等）を会場として使用し、島根県内各地の専門職の参加しやすい専門講習を目指した。



早期発達支援コース松江会場の講義風景

文部科学省委託「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業 【基礎課程】

平成21年第Ⅱ期 申込者延べ474名 受講者延べ431名 修了者延べ371名

プログラム番号		プログラム内容	講師	研修時間(日数)	開講日・会場
<b>【産後うつケア・虐待予防(基礎)コース】15時間 申込者108名 受講者101名 修了者87名</b>					
①1	講義	周産期の母親への援助 ー虐待を予防するためにー	埼玉県立がんセンター産婦人科医師 荷見よう子	2時間	1日 2/7(土) 出雲キャンパス
①2	講義	地域における虐待予防のとりくみー虐待予防につながる子育て中の親への接し方ー	元高知県立児童相談所小児科医師 澤田 敬	3時間	
①3	講義	産後うつ病とEPDS利用法・二次スクリーニング ー助産師の立場からー	九州大学病院総合周産期母子医療センター母性胎児部門看護師長 山下春江	5時間	1日 2/8(日) 出雲キャンパス
①4	講義 演習	MCGとは何かー被虐待児の親へのアプローチー	社会福祉法人子どもの虐待防止センター理事(CCAP)相談員 広岡智子	2時間	1日 4/26(日) 出雲キャンパス
①5	講義	保健・保育・学校等関係機関における虐待防止 ー乳幼児・学童における虐待防止ー	関西学院大学教授 才村 純	2時間	
①6	講義	地域における虐待予防体制ー島根県における虐待相談と虐待防止のネットワークー	元浜田児童相談所長 小村臨床心理士事務所長 小村俊美	1時間	
<b>【食育実践指導(基礎)コース】15時間 申込者93名 受講者81名 修了者69名</b>					
②1	シンポジウム	食育への取り組み(事例報告)	作陽保育園園長 有木信子 実践女子短期大学 准教授 白尾美佳 東京大学奨学厚生グループ 管理栄養士 栗本孝子 中国四国農政局島根農政事務所 消費生活課課長 藤井信幸	3時間	1日 2/14(土) 松江キャンパス
②2	講義	食育とはー生活及び食生活実態調査の結果から	厚生労働省健康局生活習慣対策室 栄養・食育指導官 田中弘之	2時間	
②3	講義	食育への取り組み(国および地方自治体の施策)	奥出雲町立亀嵩小学校校長 古川康徳	2時間	1日 4/19(日) 浜田キャンパス
②4	パネルD	食育への取り組み(事例報告)	西日本新聞「食くらし取材班」フリーライター 渡邊美徳 慶應義塾大学保健管理センター教授 南里清一郎 同志社女子大学生生活科学部准教授 神田知子	3時間	
②5	講義	食育の必要性ーからだ(身体機能・脳)ー	国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授 山王病院小児科部長 鈴木五男	2時間	
②6	講義	食育の必要性ー五感・こころーなぜ食育か	前日本子ども家庭総合研究所・愛育相談所所長 愛育病院心理福祉室長 川井 尚 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部 栄養学科教授 山本 妙子	3時間	1日 7/5(日) 出雲キャンパス
<b>【早期発達支援(基礎)コース】15時間 申込者273名 受講者249名 修了者215名</b>					
③1	講義	DENVER II デンバー式発達スクリーニングの手法	兵庫県立こども病院総合診療科医師 宅見晃子	2時間	1日 2/15(日) 浜田キャンパス 3/20(祝) 松江キャンパス 3/21(土) 出雲キャンパス
③2	技術演習	DENVER II デンバー式発達スクリーニングの利用	兵庫県立こども病院総合診療科医師 宅見晃子	3時間	
③3	講義	早期発達支援と親支援の進め方	島根県立大学短期大学部教授 山下由紀恵	2時間	1日 4/29(祝) 浜田キャンパス 5/9(土) 松江キャンパス 5/10(日) 出雲キャンパス
③4	講義	視覚に弱さをもつ子どものアセスメントと療育	大阪医科大学LDセンターオプトメトリスト 奥村智人	3時間	
③5	講義	就学前の発達障害児とその家族の支援について	神戸大学医学部保健学科教授 高田 哲	1.5時間	1日 5/31(日) 出雲市民会館
③6	講義	療育ネットワークをつくるー長野県での取り組みー	長野県立こども病院「障害児療育・保育・教育支援研究会」代表 理学療法士 木原秀樹	1.5時間	
③7	シンポジウム	地域の子育て支援ネットワークのあり方ー人と支援をつなぐ相談支援手帳(ファイル)の工夫ー	話題提供者: 河井克典(松江市の取り組み) 高田 哲 (神戸市・神戸大学の取り組み) 木原秀樹(長野県の取り組み)	2時間	

事業内容の検証と人材育成についての協議にあたって、島根県健康福祉部・松江市健康福祉部子育て課・松江市教育委員会特別支援教育課・出雲市地域振興部少子対策課・浜田

市市民福祉部子育て支援課の自治体「子育て支援」専門部局担当者、ならびに日本助産師会島根県支部・島根県栄養士会・島根県保育協議会・島根県国公立幼稚園長会・島根県看護協会保健師職能委員会のような島根県内職能団体、特別支援学校関係代表者、島根県社会福祉協議会福祉人材センターに委員を委嘱して、年3回の連携会議を開催した。

対象は、保健・栄養領域（助産師・保健師・栄養士・管理栄養士等）、保育・教育領域（保育士・幼稚園教諭・特別支援学校教諭等）の「子育て支援」にかかわりの深い専門資格・免許をもつ現職者および離退職者である。平成21年度中は、第Ⅱ期の3コース（各基礎・専門課程）の講習を実施した。

文部科学省委託「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」事業 【専門課程】

平成21年第Ⅱ期 申込者延べ159名 受講者延べ142名 修了者延べ131名

プログラム番号		プログラム内容	講師	研修時間(日数)	開講日・会場	
<b>【産後うつケア・虐待予防(専門)コース】30時間 申込者50名 受講者33名 修了者28名</b>						
①7	技術演習	島根県における虐待のアセスメント方法	元浜田児童相談所長 小村臨床心理士事務所長 小村俊美	8時間	1日	8/1(土) 出雲キャンパス
①8	講義・演習	産後うつ病研究の最前線	九州大学病院総合周産期母子医療センター母性胎児部門看護師長 山下春江	7時間	1日	8/23(日) 出雲キャンパス
①9	講義・演習	I.MCG(母と子の関係を考える会)とは II.子育てに悩む母親たちの気持ちと求められる援助 III.MCGグループ体験IV.MCGの実際	社会福祉法人子どもの虐待防止センター(CCAP)相談員 広岡智子・野村一枝・天野智子	15時間	2日	8/29(土)8/30(日) 出雲キャンパス
<b>【食育実践指導(専門)コース】15時間 申込者31名 受講者31名 修了者33名</b>						
②7	講義	栄養教育の方法	福岡県立大学人間社会学部教授 小松啓子	2時間	1日	10/10(土) 浜田市 いわみーる
②8	技術演習	栄養カウンセリング		3時間		
②9	講義	小児(乳幼児期・学童期・思春期)の体の特徴と栄養	獨協医科大学小児科教授 有坂 治	2時間	1日	10/25(日) 出雲市 ビッグハート出雲
②10	講義	小児(乳幼児期・学童期・思春期)の栄養ケア	日本子ども家庭総合研究所母子保健部栄養担当部長 堤ちはる	1.5時間		
②11	講義	授乳・離乳の支援ガイドについて		1.5時間		
②12	技術演習	母性(妊娠期・授乳期)の特性と栄養ケア	国立保健医療科学院母子保健室長 瀧本秀美	2時間	1日	11/14(土) 松江キャンパス
②13	技術演習	小児の栄養評価・ケア計画・実施後の評価について	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授 赤松利恵	3時間		
<b>【早期発達支援(専門)コース】30時間 申込者78名 受講者78名 修了者70名</b>						
③8	講義	ソーシャルスキル発達支援のすすめ方	NPO法人フットーロLD発達相談センターかながわ所長 安住ゆう子	5時間	2日	7/19(日)7/20(月・祝) 松江キャンパス
	実習	SSTの実践プログラム	三島節子	3時間		
③9	技術演習	ボータージ初級養成講座	NPO法人日本ボータージ協会会長 山口 薫 清水直治・吉川真知子・中西慶子	18時間	3日	9/20(日)～9/22(火・祝) 出雲キャンパス
③10	技術演習	自立のための指導プログラム	社団法人発達教会第一指導科科長 武藤英夫	2時間	1日	11/8(日) 出雲キャンパス
③11	講義	発達障害の子どもたちと家族への支援	久留米大学医学部准教授 山下裕史朗	2時間		
<b>【特別セミナー】 参加者42名 (一般も含む)</b>						
	講義・実習	「幼児・グループ指導カリキュラム」セミナー	日本ボータージ協会 山口 薫・清水直治・成澤佐和子	9時間	2日	6/20(土)6/21(日) 出雲キャンパス



## 平成21年度松江キャンパス学外団体との共催事業

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
食育イベント「地域の食材を楽しく学ぼう 親子で挑戦！食リンピック」NPO法人食育推進協会・株式会社MIしまね共催	健康栄養学科教授 奥野元子	第4回食育推進全国大会に向けてのイベント 親子で食事や食べ物の大切さを楽しく学ぶ (会場:松江イングリッシュガーデン)	平成21年 5月9日	約30名	健康栄養学科教員と学生参加
第4回食育推進全国大会 内閣府・島根県・島根県食育・食の安全推進協議会主催  展示会場「食育フェア in 島根」 農林水産省主催、実施主体:(株)ジェイコム、実施協力:NPO法人食育推進協会ほか	健康栄養学科教授 名和田清子 健康栄養学科助手 坂根千津恵	・わが家の一流シェフin島根料理コンクール ・スローフードプロジェクト ・ペットボトルピザ ・味覚の授業 ・マロンのかんたん料理教室 ・うち飯スタイル料理教室 【会場:くにびきメッセ】	平成21年6 月13日、14 日	約13,100 名	健康栄養学科・保育学科教員と学生参加
	健康栄養学科准教授 直良博之	たべものミクロの世界をみてみよう(最高倍率1万倍) 【会場:くにびきメッセ】			
	健康栄養学科教授 奥野元子 保育学科准教授 飯塚由美	・乳幼児ふれあい食育ゾーン ・親子で食育！「食リンピック」 ・食育ニッポンおいしいステージ ・食事診断コーナー ・地域の鍋料理コーナー ・スペシャルトークセッション 【会場:くにびきメッセ】			
	総合文化学科准教授 岩田英作	絵本のよみきかせ【会場:くにびきメッセ】			
「親から子ども、孫へ伝える中国の食文化、日本の食文化」NPO法人食育推進協会・株式会社MIしまね共催	健康栄養学科教授 奥野元子 健康栄養学科教授 安藤彰朗	講師:在日中国大使館領事部参事官 呂小慶氏・夫人 李駿氏 立教女学院講師 小林麻衣子氏 日本食育支援機構事務局長 黛泰次氏 (会場:松江キャンパス)	平成21年 6月15日	約100名	本学教員と学生参加
「医療英語勉強会」しまね多文化共生ネットワーク共催	総合文化学科講師 ラング・クリス	医療通訳のための専門用語の学習、診療科ごとの通訳ロールプレイなどの勉強会	平成21年4 月～平成22 年3月	約10名	
「松江・浜田フィールドトリップ」島根県立大学浜田キャンパスとの共催	総合文化学科教授 小玉容子 総合文化学科講師 ラング・クリス	松江キャンパスと浜田キャンパスの学生が互いに松江・浜田を訪ね、それぞれの土地について知識を深めるとともに、交流を行った。	平成21年7 月[2回]		参加学生24 名教員4名
大学生チャレンジショップ事業 松江市まちづくり推進課	総合文化学科教授 磯部美津子 総合文化学科講師 藤居由香	生活リノベーション授業の環境である環境保全対策と資源の有効活用として、エコバックおよび木工品を作成し、展示販売を実施。さらに市民・同窓会員との交流を行なった。	平成21年3 月4日～3月 6日		総合文化学科1年32名 +2年有志 +closet部員

## 平成21年度松江キャンパス学外団体への協力事業

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
うんなん鯖パンプロジェクト	健康栄養学科教授 名和田清子 健康栄養学科助手 坂根千津恵	雲南さくらまつりでの新しい名物の開発及び食育推進活動への参画 ・焼き鯖を用いたパンの開発	平成21年4 月4日～5日 (準備は平成 21年3月より)	約240名	健康栄養学科教員と学生参加

平成21年度松江キャンパス学外団体への協力事業(続き)

事業名称	本学担当者	事業内容	期間	参加者	備考
食育意見交換会(食育推進シンポジウム) 主催:島根県	健康栄養学科教授 名和田清子	第4回食育推進全国大会フォローアップ事業のコーディネーター	平成22年 3月14日	約100名	
うんなんスイーツの杜プロジェクト	健康栄養学科教授 名和田清子 健康栄養学科助手 坂根千津恵	雲南の野菜を使ったスイーツ商品開発(プリンに続く第2弾プロジェクト) ・さくらクレープ(トマト、小松菜) ・マカロン(ごぼう、人参など) ・生クリーム大福(さつまいも、ほうれん草など) ・パウンドケーキ(チンゲン菜+ホワイトチョコなど)	平成22年1月～3月	約20名	健康栄養学科教員と学生参加
農商工連携促進事業「カラコロ大ちゃんの縁結び地産市」(主催:松江商工会議所)	健康栄養学科教授 奥野元子 健康栄養学科属託 助手 兼折真由美	安全・安心な地場産品の流通と消費、地場産品に対する意識向上、食を選択する力の育成を目的とした事業。その参画と食育の実施。会場:カラコロ広場	平成21年7月12日及び11月12日	約200～300名/回	健康栄養学科教員と学生参加
遊航(ゆこう)！まちぐるみ船出の祝い(主催:タテ町商店街協同組合、松江天神町商店街協同組合)	健康栄養学科教授 奥野元子 健康栄養学科属託 助手 兼折真由美	まちぐるみで地元の小学生の卒業を祝い、地域のふれあいと活性化を推進。イベント広場で食育ゲームを実施。会場:天神町ロータリー広場	平成22年3月7日	約1000名	健康栄養学科教員と学生参加
牛乳・乳製品利用料理コンクール島根県大会 島根県牛乳普及協会主催	健康栄養学科教授 奥野元子	牛乳・乳製品の消費拡大を図るため料理コンクール。審査委員長。会場:松江キャンパス	平成21年7月～11月	約50名	
一日食品衛生監視員および食品衛生に関するリスクコミュニケーション 主催:島根県松江保健所	健康栄養学科教授 安藤彰朗 健康栄養学科助手 坂根千津恵 兼折真由美	島根県松江保健所から、学生が一日食品監視員の委嘱をうけ、食品衛生知識の普及啓発事業に参加協力	平成21年8月4日		健康栄養学科教員と学生7名参加
島根県保育所(園)幼稚園造形教育研究会	保育学科講師 福井一尊	島根県内保育所(園)幼稚園の園児の絵画作品審査会、指導講習会を実施(会場:体育館アリーナなど)	平成20年11月21日	保育士・幼稚園教諭約200名	本学教員が作品審査員、講師を務める
松江ゴーストツアー NPO法人松江ツアーリズム研究会主催	総合文化学科教授 小泉 凡	小泉八雲の文学や松江の怪談を語りながら歩く地域提案型ツアー。講師をつとめる。(松江城周辺)	平成21年4月～9月(月1回)	約75名	
やくも教室 小泉八雲記念館(NPO法人松江ツアーリズム研究会)主催	総合文化学科教授 小泉 凡	安来および松江市内の小泉八雲ゆかりの地文学ツアー。講師をつとめる。	平成21年5月30日	約30名	
子ども塾一スーパ一へるんさん講座一 松江市主催	総合文化学科教授 小泉 凡	小泉八雲を通して子どもたちに五感力を育む教育実践。塾長をつとめる。(松江市・出雲市)	平成21年7月24・29・30および8月3日	約30名	
松江開府400年祭 佐陀川野点船(のたてぶね)	茶道部顧問 河原修一	松江市・松江開府400年祭推進協議会主催 佐太神社境内及び佐太神社・宍道湖間の佐陀川の船内での抹茶の点て出し	平成21年10月24日(土)10月25日(日)		茶道部員9人、茶道部顧問、茶道部学外講師
大田市立図書館一としょかんフェア一	総合文化学科准教授 岩田英作	卒業プロジェクトおはなしゼミ(2年)による読み聞かせボランティア	平成21年10月31日		総合文化学科3名
まつえキムチフェスティバル (松江市国際交流協会主催)	総合文化学科講師 塩谷もも	行事の準備及びイベント運営補助ボランティア	平成22年2月7日		総合文化学科3名
アイリッシュ・フェスティバルin松江2010	総合文化学科教授 小泉凡	平成22年3月14日開催のアイリッシュ・フェスティバルの実行委員長として企画・運営・実施を推進する。(主管:財団法人松江市国際交流協会)	平成21年10月～22年3月	約300	「キャンパスゼミナール」所属学生もプロジェクトに参加
松江バリアフリーモニターツアー 主催:松江市	保育学科教授 山下由紀恵(地域連携推進委員会)	松江市とNPO法人プロジェクトゆうあいの協力による事前研修を受けて、希望学生2名が支援ボランティアに参加した。	学内研修会平成21年10月21日 活動平成21年10月28日～30日	車椅子利用者数名	総合文化学科2年1名・保育学科1年1名
乃木公民館「放課後のぎっこ広場」(文科省の放課後子どもプラン事業)	保育学科教授 山下由紀恵(地域連携推進委員会)	乃木小学校で実施される放課後の子ども活動支援ボランティアに、希望学生が地域の社会人とともに参加協力した。	学内説明会平成22年2月2日 活動平成22年2月～3月	乃木小学校児童数十名	健康栄養学科2年1名・保育学科2年1名・総合文化学科1年3名

《健康栄養学科の地域活性化支援》

第4回食育推進全国大会（開催地：松江）に向けて、プレイベント「親子で食事や食べ物の大切さを楽しく学ぶ」を、松江イングリッシュガーデンにおいて NPO 法人食育推進協会及び(株)MIしまねとの共催で開催した。学生による講演及びパネルディスカッションを行った。



松江イングリッシュガーデンでの講演風景

第4回食育推進全国大会（主催：内閣府/島根県/島根県食育・食の安全推進協議会）が6月13日（土）および14日（日）、くにびきメッセ（松江市）にて開催された。島根県やNPO 法人食育推進協会等と連携し、総合文化学科や保育学科の協力のもと、健康栄養学科の教員や学生を中心に各種のプログラムに取り組んだ。「わが家の一流シェフ in 島根」（島根県オリジナルプログラム）、食育ゲームや学生ライブ授業「あなたの食事は大丈夫？」（農林水産省につぼん食育推進事業「食育フェア in 島根」プログラム）の実施、ペットボトルピザ作りのボランティアスタッフ、うち飯スタイル料理教室でのナビゲーター、食リピック、ふれあいゾーンでの食育ボランティアスタッフ、走査型電子顕微鏡を使って「食べ物のミクロの世界をのぞいてみよう」（島根県立大学短期大学部ブース）の出展、「読み聞かせ」（キッズコーナー）の実施等々、多岐にわたるプログラムであった。食育について楽しく学べ、食の大切さがよく理解できたなど、来場者から大きな反響があった。来場者は2日間で約13,100人と大会は大盛況のうちに閉幕した。



「わが家の一流シェフ in 島根」の様子



学生ライブ授業の様子



ペットボトルピザの作り方を説明



うち飯スタイルでの調理風景



食リンピックの様子



ふれあいゾーンでの様子



読み聞かせの様子

また、在日中華人民共和国大使館領事部参事官の呂小慶氏、夫人の李駿氏を招き、「親から子ども、孫に伝える中国の食文化、日本の食文化」と題し、講演会を開催した。本学教職員と学生 100 名の参加があった。設営には、NPO 法人食育推進協会、(株)MIしまね、本学教職員の協力を得た。



特別講演会「親から子ども、孫に伝える中国の食文化、日本の食文化」

このほか、健康栄養学科では西条ガキ、しまね和牛、ヤマトイモ等の地域特産品に関する利用加工や製品化、ブランド化、販路拡大といった地域からの要望に応え、データの提供や技術指導を行った。また、雲南省の食育推進活動への参加・協力の依頼に対して、うんなん鯖パンプロジェクト、うんなんスイーツの杜プロジェクトにおいて、焼き鯖パン、野菜を使ったスイーツなどの食品開発に協力した。さらには牛乳料理（島根県牛乳普及協会）、わが家の一流シェフ料理等のコンクール（島根県食育・食の安全推進協議会）の応募や開催への協力のほか、松江商工会議所や松江市内の商店街協同組合主催のイベントへの依頼に学生を動員し、食育ゲームを実施した。

次年度も、引き続き、地域の活性化の観点から、西条柿では、安定的に熟柿をつくる技術の確立、熟柿の有効ポリエチレン袋包装による保存と輸送性の向上、安価で大量にピューレを生産する技術開発など、しまね牛は脂肪酸組成やアミノ酸組成の分析、ヤマトイモは $\beta$ -アミラーゼ活性や粘弾性などの調理特性、調理への利用に関する研究を推進する。また、雲南省の食育推進活動への参加・協力も引き続き行う。

#### 《保育学科の地域活性化支援》

保育学科においては、島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会顧問として、福井一尊講師が県内保育所・幼稚園に連携協力し、平成21年11月30日に本学で園児の絵画作品審査会を実施した。同審査により選ばれた園児の作品は、島根県立美術館で平成22年1月14日から18日「第5回島根県保育所（園）・幼稚園造形作品展」として展示された。

#### 《総合文化学科の地域活性化支援》

総合文化学科では、しまね多文化共生ネットワークと共催して「医療英語勉強会」を開催した（本学担当はラング・クリス講師）、また、小泉凡准教授が松江ゴーストツアー、やくも教室を実施した。さらに、第4回食育推進全国大会に協力して、卒業プロジェクトおはなしゼミが、読み聞かせボランティアを実施した（本学担当は岩田英作准教授）。

「医療英語勉強会」は、島根に住む外国人を対象とした医療通訳育成・技能向上を目的として実施中の事業である。しまね多文化共生ネットワークと連携し、平成21年4月から3月にかけて、月に一度金曜日の午後1時から3時までと午後7時から9時までの2クラスで勉強会を実施した。勉強会参加者は、10名程度である。

勉強会では、実際の医療場面を想定したテキスト文の日本語から英語への翻訳学習を行ない、診療科ごとの通訳会話役割練習を行なうことで、医療用語を身につけることを目的とした。



【医療英語勉強会風景】

また、総合文化学科小泉凡教授は、保育学科の福井一尊講師とともにNPO法人松江ツーリズム研究会が運営する小泉八雲記念館と連携し、企画展「ラフカディオ・ハーンとギリシャ～もうひとつのルーツと受け継がれる精神性～」(平成21年4月25日～平成22年3月31日)を企画・実施した。その他、同NPO法人との連携事業として「小泉八雲文学バスツアー'09」(安来市内のゆかりの地訪問、平成21年5月30日)および、「松江ゴーストツアー」(平成21年4月から平成22年3月まで、計11回)を実施した。この事業は国土交通省「ニューツーリズム創出・流通促進事業」に採択されている。また、同NPO法人の社員研修会の講師として「松江における小泉八雲記念館の意味」について講演を行った。(平成22年2月25日・3月9日)



【小泉八雲記念館企画展「ラフカディオ・ハーンとギリシャ～もうひとつのルーツと受け継がれる精神性～」の会場風景】

平成21年6月13・14日の2日間、松江市のくにびきメッセで開催された第4回食育推進全国大会に、総合文化学科の卒業プロジェクト「近文おはなしゼミ」の学生11名が、絵本の読み聞かせボランティアとして参加した。セッションは1回につき30分、つなぎの遊びを挟みながら2冊の絵本を読む構成で、1日目の午前・午後、2日目の午前・午後、それぞれ1回、計4回のセッションを行った。大会の趣旨にちなんで、食に関わる絵本や



【食育推進全国大会での活動風景 (1)】



【食育推進全国大会での活動風景 (2)】

遊びで構成し、多くの子どもたちと触れ合うことができた。アンケートの結果も概ね好評で、「がんばってくれていたのよかったです。ウンチの話はわかりやすく楽しめました」「学生の皆さんは、私たち保護者顔負けの子どもに慣れた感じのやさしい語りかけで驚きました。子どもも最初から最後まで正座でよく聞いていました」などの感想をいただいた。

#### 【地域活性化支援－自治体等との連携】

松江キャンパスは、平成 19 年度に松江市との協力協定を締結し、その後は協定を踏まえ、「公開講座」でまつえ市民大学と連携するほか、松江市主催行事に本学教員と学生が協力するなど連携を強化している。正課教育において、松江市職員を非常勤講師とする複数の専門科目講義・実習、松江市立施設・学校における実習も継続して実施している。

今年度は、松江市都市計画部まちづくり推進課の「大学生チャレンジショップ事業」に、商業施設士補資格取得を目指す総合文化学科生活文化デザイン系 1 年生 32 名全員が参加した。この事業は、中心市街地活性化のために、松江市中心部にある山陰中央新報社所有の「殿町ギャラリー」を松江市が借り上げ、まちなかでの展示・販売により自分の力を試みたい大学生を応援するという主旨である。

今回の参加概要は次の通りである。店舗名は「eco」ショップ、テーマは「～地球を暖々からだんだんへ～」を掲げた。松江市では、平成 22 年 4 月からスーパーマーケットでのレジ袋有料化が決まっており、エコバッグは消費者のニーズがあると考えた。

- 実施内容
- 1) 商業施設士補資格取得のために商業空間デザインを学ぼうと、店舗ディスプレイに挑戦した。
  - 2) 販売商品には手作りしたものを主に準備した。
    - ①生活リノベーションの授業で学習した、着古したスカートやブラウスを使って作ったエコバッグ

②マルチメディア演習室にあるパソコンソフトを使い、各自がデザインをした図案をプリントしたエコバッグ

③かご用バッグ、自転車用バッグや就学支援グッズとしての、コップ入れ、弁当入れ&ベルト、上履き入れ、髪飾りのシュシュなど

④フリーマーケットコーナーを設け、古着も準備した。

3) 来客者に喫茶コーナーで茶菓を提供した。



【4月からのレジ袋の代わりに】



【若いお母様から好評でした】



【メンバーです、頑張りました】



【交流が出来ました】

殿町ギャラリーでの展示販売実施日時は、平成 22 年 3 月 4 日（木）10:00～15:00 が展示販売準備、開店時間は 3 月 5 日（金）10:00～18:00、6 日（土）10:00～16:30 であった。来場者数は 1 日目 74 名、2 日目 92 名の合計 166 名であった。

#### 【松江市主催文化教育行事への教員協力】

- ・松江市観光文化ブランド推進課主催「子ども塾—スーパーヘルンさん講座」  
「子ども塾」は小泉八雲を活用して子どもたちの五感力の育成をめざす教育実践活動である。総合文化学科小泉凡教授が平成 16 年からこの「子ども塾」の塾長として協力している。

平成 21 年度は、7 月 24 日・29 日・30 日・8 月 3 日に塾を開き、参加者は小学生 4・5・6 年生の児童計 17 名が参加した。（会場：市民活動センター、

島根県立青少年の家など)。出雲市の島根県立青少年の家で行った合宿では、小泉のレクチャーのほか、兵庫県立人と自然の博物館と連携し、八雲が愛した虫の音を聞き分ける実践活動を行った。講師として同博物館の大谷剛研究員・川東丈純氏に指導をお願いした。なお、「子ども塾」の活動は、環境省が平成21年3月に発行した『感覚環境のまちづくり事例集～こんな“まち”いい感じ』に採録された。



【「子ども塾」2009の参加者とともに】



【「子ども塾」2009の活動風景】

・「アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2010」

(財) 松江市国際交流協会・山陰日本アイルランド協会が共催する行事で、アイルランドと松江の文化交流と中心市街地活性化を目的として、パレードおよびアイルランドにちなんだ各種イベントを開催。平成22年3月14日に開催された。小泉凡教授が実行委員長として、本学のキャンパスゼミナール部に所属する約10名の学生とともに企画・実施に携わった。

[松江市主催行事への学生ボランティア参加協力]

・松江開府400年祭事業「佐陀川野点船(のだてぶね)」への協力

松江市・松江開府400年祭推進協議会主催 佐太神社境内及び佐太神社・宍道湖間の佐陀川の船内での抹茶の点て出しに、茶道部員9人が、茶道部顧問・茶道部学外講師とともに協力した(平成21年10月24日・10月25日)。

・松江市観光バリアフリー・モニターツアーへの協力

松江市主催、NPO 法人プロジェクトゆうあいの協力により行われた車椅子利用者のための観光モニターツアーに、総合文化学科学生1名、保育学科学生1名が研修を受けてボランティアとして協力した(平成21年10月28日～30日)。

・まつえキムチフェスティバルへの協力

松江市国際交流協会主催で行なわれた松江テルサでの「まつえキムチフェスティバル」の準備と運営補助にボランティアとして参加した。会場の受付係、韓国茶の販売係、市民が参加するキムチ漬け込み体験係の補助として、総合文化学科3名(2年生1名、1年生2名)の学生が協力した(平成22年2月7日)。

#### 【松江市立女子高等学校との連携】

- ・松江市立女子高等学校によるキャンパス見学と卒業生交流会  
松江市立女子高等学校1年生のキャリア教育推進に協力して、1年生全員(115名)のキャンパス見学会を実施した。平成21年10月21日午後14:00から17:00までの3時間に、施設見学と模擬授業を実施した。  
模擬授業は、総合文化学科地域連携推進委員塩谷もも講師により「異文化を学ぶ」授業として行われた(会場:大講義室)。1年生115名を対象に、ジャワでのフィールド・ワーク調査をもとにした文化人類学入門の授業(45分)が行われ、全員が熱心に受講した。講義後に同じ大講義室で、松江市立女子高等学校卒業の本学学生との交流会があり、質疑応答が行われた。

#### 【正課授業における連携協力】

- ・健康栄養学科専門科目における、松江市管理栄養士による実習  
健康栄養学科専門科目「ライフステージ栄養指導実習」(2年生前期必修科目・1単位)において、「松江市立八雲小学校」栄養教諭の長島美保子講師が、児童を対象とした栄養教育部門の実習を5回担当した。15回中残り10回は奥野元子教授により行われた。健康栄養学科専門科目「給食計画実習」(2年生前期必修科目・1単位)において、同じく長島美保子講師が、学校給食部門および保育所部門の実習10回を担当した。15回中残り5回の病院部門は松江市内松江記念病院管理栄養士永見葉子講師により行われた。
- ・保育学科専門科目における、松江市立幼稚園長・松江市立保育所長・松江市立児童センター長による講義  
保育学科専門科目「障害児保育」(2年後期選択科目・2単位)の非常勤講師として、「松江市立川津幼稚園」園長の山尾淳子講師、「松江市子育て支援センター」所長の石橋富佐美講師が5回ずつ講義を担当した。15回中残り5回は元「ふじのみ園」園長補佐曾田関子講師により行われた。松江市の30年以上にわたる障害児保育の歴史が、3名の立場から学生に講義された。  
保育学科専門科目「児童館(児童クラブ)の機能と運営」(1年後期選択科目・2単位)の非常勤講師として、「松江市立八雲児童センター」所長の石倉恒巳講師により、実際の児童館活動に関する講義が行われた。
- ・松江市立施設・学校における実習協力  
健康栄養学科・保育学科の専門科目実習について、松江市立病院、松江市立学校給食センター、松江市立小学校、松江市立保育所、松江市立幼保園のぎ、松江市立幼稚園が協力し、実習指導を行っている(実習欄に別掲)。
- ・松江キャンパス近辺の幼・小・中学校との密接な連携協力  
学生ボランティアが放課後子どもプラン事業に協力したほか、下記の教育関係欄に記載のとおり、松江市立幼保園のぎ、松江市立乃木小学校、松江市立湖南中学校等と、教育上の密接な連携協力を行っている。

#### 【教育機関等との連携－保・幼・小・中・高・大の教育連携】

初等中等教育機関との教育連携については、平成18年度の協定締結以降、各学科における松江市立幼保園のぎ・松江市立乃木小学校・松江市立湖南中学校との緊密な連携協力のもと、教員による特別授業のほか、学生による読み聞かせ実践・食育実践指導等の連携事業を実施し、初等・中等教育側にも、大学教育側にも、目覚ましい教育的成果をあげている。

平成21年度松江キャンパス教育機関との連携事業

機関名・事業名称	本学担当者	事業内容	期間	本学参加学生
松江立乃木小学校 「近文おはなしゼミ」	総合文化学科准教授 岩田英作	卒業プロジェクト「近文おはなしゼミ」の読み聞かせの実践の場として乃木小学校が連携協力	平成21年5月 ～7月	総合文化学科2年 11名
松江立乃木小学校 松江立幼保園のぎ 「読み聞かせの実践」	総合文化学科准教授 岩田英作 総合文化学科准教授 マユアキ	正課授業「読み聞かせの実践」(1年生前期選択科目・2単位)の実践の場として幼保園のぎが連携協力	平成21年6月 ～7月	総合文化学科1年 46名
松江立乃木小学校 「朝の読み語り」	総合文化学科教授 小玉容子 総合文化学科講師 ラング・クリス	総合文化学科授業「キッズイングリッシュ&ストーリーテリング」(2年生前期選択科目・1単位)の実践の場として、乃木小学校で「英語かみしばい」を実施	平成21年6月 ～7月	総合文化学科16 名
松江立乃木小学校 読み聞かせ活動	総合文化学科准教授 岩田英作 総合文化学科准教授 マユアキ	卒業プロジェクトおはなしゼミ(2年)及び1年有志の読み聞かせ実践の場として乃木小学校と連携協力	平成21年10 月～平成22 年2月	総合文化学科27 名
松江立乃木小学校 総合的学習「小泉八雲と松江」	総合文化学科教授 小泉 凡	郷土文化の理解を目的とした総合的学習の時間に3年制全員に「小泉八雲と松江」に関する授業を行う。	平成22年1月 26日	
松江立内中原小学校 英語活動「へるんさんの異文化体験」	総合文化学科教授 小泉 凡	英語活動の時間に、3年生全員に小泉八雲の異文化体験に関する授業を行う。	平成22年2月 2日	
松江立乃木小学校5年生 食育授業「あぶら・からだ・食事」	健康栄養学科准教授 直良博之	乃木小5年生148名を対象に「あぶら・からだ・食事」をテーマとする食育授業を実施した。	平成21年 12月15日	健康栄養学科学 生および教員
松江立八雲小学校 夏休み農業体験・料理教室 「夏野菜をたっぷり味わおう」 (松江立八雲小学校PTA主催)	健康栄養学科教授 奥野元子	家族と一緒に夏休み農業体験・料理教室に参加し、学生は食育を体験した。	平成21年8月 3日	健康栄養学科2年 生6名
松江立忌部小学校 読み聞かせ活動	総合文化学科准教授 岩田英作	卒業プロジェクトおはなしゼミ(2年)の読み聞かせ実践の場として忌部小学校と連携協力	平成22年1月 ～3月	総合文化学科11 名
出雲立遙穂小学校 読み聞かせ活動	総合文化学科准教授 岩田英作	卒業プロジェクトおはなしゼミ(2年)の読み聞かせ実践の場として遙穂小学校と連携協力	平成22年3月 10日	総合文化学科3名
松江立忌部小学校 英語活動「アイルランドについて」	総合文化学科教授 小泉 凡	英語活動の時間に、3年生～6年生全員にアイルランドの文化に関する授業を行う。	平成22年2月 3日	
斐川町立出東小学校 食育授業「身近にある食材・食品を考えてみよう」	健康栄養学科教授 奥野元子	出東小学校5年生42名に対し、NPO法人食育推進協会及びMILまねとの共催事業として実施した。	平成22年 3月8日	健康栄養学科2年 生2名
松江立本庄中学校	健康栄養学科教授 名和田清子	本庄中学校1・2・3年生84名および教職員・保護者を対象として、食に関する講演会を実施した。	平成21年 9 月30日	なし
松江立第四中学校	健康栄養学科教授 名和田清子	第四中学校1・2年生および教職員・保護者40名を対象として、食に関する講演会を実施した。	平成21年 9 月26日	健康栄養学科学 生5名
松江立湖南中学校 松江立サタデースクール事業	保育学科教授 山下由紀恵 (地域連携推進委員会)	湖南中学校で実施された土曜日の学習支援(サタデースクール事業)に希望学生がボランティアで協力した。	平成21年6月 ～平成22年2 月	健康栄養学科・保 育学科・総合文化 学科2年生各1名
島根県教育委員会 特別支援教育「学生支援員」参加	保育学科教授 山下由紀恵	平成21年度発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業に、主に保育学科学生から希望者が登録、実際に松江市・出雲市等で小・中学校支援を実施した。	平成20年 7月から継続 実施	保育学科学生1年 32名2年8名・総 合文化学科1年3 名2年2名が登録 、10名が活動

高大連携については、平成 18 年に協定を締結した島根県立松江商業高等学校との間で相互交流を実施し、面接指導等を実施している。松江市立女子高等学校との連携事業として総合文化学科塩谷もも講師による模擬授業「異文化を学ぶ」も行われた。また同じく松江市立女子高等学校では、健康栄養学科中塚敏之教授による「郷土理解」校外実習も行われた。島根県立松江東高等学校では、健康栄養学科安藤彰朗教授による出張講義「食べ物と身体の間をみてみようーエネルギー代謝を考えるー」が行われた。島根県立大社高等学校では、健康栄養学科直良博之准教授による出張講義「おいしく食べる体のしくみ 五官（感覚）の解剖生理学」が行われた。島根県立大東高等学校では、健康栄養学科名和田清子教授による出張講義「食育について」が行われた。

連携協力協定を結んでいる松江市立湖南中学校のサタデー・スクールの支援員に健康栄養学科 2 年 1 名、保育学科 2 年生 1 名、総合文化学科 2 年 1 名、計 3 名の学生が協力した。

また、島根県教育委員会「平成 21 年度発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業に係る島根県学生支援員事業」と連携協力して、全学学生の希望者から学生支援員の登録を受け、学生支援員を派遣している。今年度は 2 年生 10 名、1 年生 35 名の計 45 名の事前登録希望があった。保育学科 40 名、総合文化学科 5 名であった。うち 10 名が活発に活動し、実際に支援員として活動した対象校と学年、支援員の学生は、以下のとおりであった。

松江市立乃木小学校 2 年生（保育学科 2 年生）

松江市立中央小学校特別支援教室（保育学科 2 年生）

松江市立大庭小学校特別支援教室（保育学科 2 年生）

松江市立湖東中学校 1 年生（保育学科 2 年生）・同中学校 2 年生（保育学科 2 年生）

出雲市立塩冶小学校 4 年生（保育学科 1 年生）

出雲市立長浜小学校 1 年生（保育学科 1 年生）

出雲市立佐太小学校 3 年生、4 年生（保育学科 2 年生）

#### 《健康栄養学科の教育機関連携》

本庄中学校では、1・2・3 年生 84 名および教職員・保護者を対象として食に関する講演会を実施した。

乃木小学校では 5 年生約 148 名を対象に、肥満を予防する観点から、採血を機会に「あぶら・からだ・食事」について考える食育授業に、健康栄養学科教員と学生が取り組んだ。児童からは、体内での脂肪の行方や食べ物について多くの質問があった。

斐川町立出東小学校での食育授業「身近にある食材・食品を考えてみよう」は、NPO 法人食育推進協会および MI しまねとの共催事業として実施した。授業は、学生が主体となり、自ら卒業研究で作成した食育教材を活用した。対象は、5 年生 42 名であった。



食育授業風景

左: 乃木小学校 右: 出東小学校

その他、松江市立女子高校で、郷土理解校外実習として、健康栄養学科教員がそば打ちを指導した。また、大東高等学校 PTA 研修会において、健康栄養学科教員が食育についての講演を行った。

#### 《保育学科の教育機関連携》

保育学科の正課「児童文化」では、1年生2年生が合同で複数のパートに分かれて「児童文化」のための制作過程を学び、「ほいくまつり」開催によって地域子どもたちと交流しつつ、大学での学びを還元している。この「ほいくまつり」の案内にあたって、松江市内保育所・幼稚園がポスター掲示・パンフレット配布に協力している。この「児童文化」の教育課程は、平成17年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の選定を受けて全国的にも評価された。平成21年度「第36回ほいくまつり」は、平成21年6月27日（土）に島根県民会館大ホールで開催され、多くの親子が学生の作りだした歌唱・司会・影絵・劇などの「児童文化」を楽しみ学生と交流した。以下の資料は、ウェブ上の保育学科紹介に掲載された、学生による「ほいくまつり」紹介の一部である。



来場者への手作りペンダントのプレゼント



県民会館客席の様子



「ほいくまつり」歌唱ステージ



来場者のお見送り

## 「ほいくまつり」とは？

私たち島根県立大学短期大学部保育学科は、毎年6月島根県民会館大ホールに1,500人の子どもたちとその保護者を招待して『ほいくまつり』を開催しています。

この『ほいくまつり』というのは、私たち学生が日頃学内で学んでいることを総合表現として舞台上で発表することを通して県の児童文化向上に寄与するとともに、地域の子どもたちや保護者の皆様楽しく夢のあるひとときを過ごしてもらおうという趣旨で開催しているものです。

取り組みの軸となるのは実行委員会です。実行委員長、総合責任者、会計の三役を中心に各パートのリーダーを合わせた14人がその構成メンバーです。このリーダー会は定期的開催され、各パートの要望や意見が交流されるとともに、話し合いを通じて方針が出されかつ総合的な指示が出されていくのです。

『ほいくまつり』の取り組みは、『児童文化』という授業の一環として行われますが、週に2回の授業の時間だけでは時間は全く足りません。そこで、準備はほぼ毎日、放課後残って行うことになります。5月に入るとパート別のリハーサル、6月になると全体リハーサルが始まります。その場では先生方や他のパートの仲間たちから多くの課題点が出され、よりよいものを創るために各パートは議論をし、修正していきます。もちろん、なかなか自分たちの思うようにはいかず、みんな悩みながら進めていくことになります。しかし、その過程の中で協力することの大切さを学び、感性を磨いていくとともに、保育というものが要求する厳しさを知るのです。

当日、子どもたちの笑顔にたくさん出会えることは最高の感動ではありますが、同時に『ほいくまつり』の取り組み過程そのものが私たち自身に大きな自信と勇気と夢を与えてくれるのです。



## 《総合文化学科の教育機関連携》

総合文化学科では、松江市立乃木小学校・幼保園のぎ・松江市立忌部小学校・出雲市立遙堪小学校での「読み聞かせの実践」、松江市立乃木小学校での「朝の読み語り（英語）」等を通して、教育機関との連携活動を行った。

また、総合文化学科の小泉凡教授は、松江市内の下記の高等学校と小学校における総合的学習の時間および英語活動の時間に、専門分野や総合文化学科の担当授業「小泉八雲入門」や「妖怪学」の内容を生かした出前授業を行った。

- 乃木小学校 総合的学習「小泉八雲と松江」（平成22年1月26日）
- 内中原小学校 英語活動「へるんさんの異文化体験」（平成22年2月2日）
- 忌部小学校 英語活動「アイルランドについて」（平成22年2月3日）
- 開星高等学校総合学習（ドリカムプラン）「妖怪学講座」（平成22年3月4日）



小泉凡教授【内中原小学校での授業風景】

### 「松江・浜田フィールドトリップ」

平成 21 年度、松江キャンパスと浜田キャンパスの学生同士が、それぞれの本拠地にある観光スポットを英語で案内するフィールドトリップを実施した。参加学生は、松江キャンパスでは「観光英語 I」（総合文化学科 1 年前期）の受講生を対象に希望者を募り、浜田キャンパスでは「ライティング」の受講生から希望者を募った。

松江キャンパスからは 17 名、浜田キャンパスからは 8 名の参加者で、松江でのフィールドトリップを 6 月第 4 日曜日に実施した。松江キャンパスの学生は、小泉八雲ゆかりの場所を訪ねるというテーマで、宍道湖嫁が島伝説や月照寺の大亀の話など八雲のストーリーを事前に調べ、英語で覚えるなどして、浜田キャンパスの学生に説明した。浜田でのフィールドトリップは 7 月第 1 日曜日に実施した。英語で観光クイズをしたり、畳が浦などの観光地を訪ね、英語での説明を聞いたりした。

日本人同士でも英語を使ってコミュニケーションを行うことで、有意義な活動となっただけでなく、学生同士の貴重な交流の場ともなった。

### 松江市立乃木小学校「朝の読み語り」

平成 21 年度の「キッズイングリッシュ&ストーリーテリング」（総合文化学科 2 年前期）の受講生 16 名は、松江市立乃木小学校の「朝の読み語り」活動にボランティアとして参加した。これは小学校で実施されている英語活動の一環として、受け入れていただいたものだった。6 月下旬から 7 月にかけての水曜日に、授業で作成した日本昔話の「英語かみしばい」を、学生が読んで小学生に聞いてもらった。

学生は小学生に楽しんでもらうために、絵をどのように描けば内容理解・英語理解の助けになるかを考え、工夫しながら紙芝居作成をした。また、プレゼンテーションの仕方に関しても、英語のリズムなどを意識した練習を積んで発表に取り組んだ。聴き手の小学生からは、英語での発表に関して、「英語の発音が上手だった」とか「英語でこんなことができることはすごいので、自分もいつか取り組んでみたい」というような感想を受け取った。

学生は貴重な実践の場を得ることで、コミュニケーションの手段としての英語を体験学習できた。また、小学校での英語活動に多少なりとも寄与できたものとする。



【乃木小学校での英語紙芝居】



【乃木小学校図書館での発表準備】

本年度の「読み聞かせの実践」（1年前期）の受講者は46名で、過去最高の人数となった。5月から7月にかけて、毎週月曜日は松江市立幼保園のぎ、水曜日は松江市立乃木小学校で、絵本の読み聞かせに取り組んだ。乃木小学校での実践には、卒業プロジェクト「近文おはなしゼミ」の学生11名が参加した。後期の11月から2月にかけては、「近文おはなしゼミ」の学生11名と1年有志16名によって、乃木小学校での読み聞かせを継続した。

本年度1月からは、松江市立忌部小学校において、新たに読み聞かせの活動を行うこととなった。「近文おはなしゼミ」の11名が、1月から3月にかけて、金曜日の朝、計6回の実践を行った。忌部小学校では従来読み聞かせのボランティアが入ったことがなく、子どもたちもワクワクしながら金曜の朝を待っているようである。山陰最大のマンモス校乃木小学校とは対照的に、忌部小学校は1学年1クラスの小じんまりした学校である。「近文おはなしゼミ」の学生たちは両方の学校での読み聞かせを経験し、視野が広がったようである。10月31日には、大田市立図書館の「としょかんフェア」の一環として、「近文おはなしゼミ」の学生3名が読み聞かせの活動を行った。これは、本学でかつて読み聞かせを実践し、現在大田市立図書館に司書として勤務している卒業生からの依頼で実現したものである。



【幼保園のぎでの実践風景（1）】



【幼保園のぎでの実践風景（2）】



【平成 21 年度「読み聞かせの実践」受講の総合文化学科 1 年生】

### 「第 14 回児童文学劇場の開催」

12月6日(日)、松江キャンパス視聴覚室において、総合文化学科2年生28名による「児童文学劇場」が開催された。宮沢賢治劇場の時から通算で14回目の公演となる。本来、10月の大学祭で公演する予定であったが、新型インフルエンザの影響で大学祭そのものが中止となり、当劇場も延期を余儀なくされた。乃木小学校ほか市内小学校17校、幼保園のぎほか市内幼稚園・保育所23施設にチラシを配布し直し、会場の飾り付けや司会の衣装なども、冬仕様にすべて作り直し、テンションを再度高めて、12月の本番当日を迎えた。幸い入場者数も過去最高の200名を記録し、劇を通して地域の方々との絆をいっそう深めることができた。



【児童文学劇場(1)】



【児童文学劇場(2)】



【児童文学劇場(3)】

### 【教育課程のための地域の施設・機関との連携強化】

健康栄養学科、保育学科において実習先との連携の強化策を検討し、可能な部分から実施している。健康栄養学科では、栄養士養成のため各種給食施設等との緊密な連携を図っている。保育学科は、実習指導計画から実習評価に至るまで実習先と連携して実習成果の充実を図っている。

#### 《健康栄養学科の実習施設・機関との連携》

栄養士免許を取得するためには、校外実習が必修である。平成21年度に実施した県内施設を下表に示した。下記の施設は、長年にわたっての実習受け入れ施設であり、卒業生が管理栄養士として勤務している。本学非常勤講師、学び直し支援講座、島根県栄養士会研修会、食育活動等を通して連携強化を図る一方で、実習終了後は、評価票の提出を求め、また、次年度の内容を検討する資料として、学生が作成した実習レポートを送付した。

平成21年度 校外給食実務実習依頼先一覧

地区	所在	実習依頼先	実習人員	日程
病院	松江市	松江赤十字病院	3	9/7～9/11
		松江市立病院	2	8/24～8/28
		独立行政法人国立病院機構 松江病院	2	8/24～8/28
		松江記念病院	3	9/7～9/11
		医療法人同仁会 こなんホスピタル	1	8/17～8/21
	出雲市	島根県立中央病院	3	8/31～9/4
	安来市	安来市立病院	1	8/17～8/21
	雲南市	公立雲南総合病院	2	8/17～8/21
	浜田市	独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター	2	8/24～8/28
学校	松江市	松江市立北学校給食センター	2	9/7～9/11
		松江市立西学校給食センター	2	9/7～9/11
		松江市立南学校給食センター	4	9/7～9/11
	出雲市	出雲市立出雲学校給食センター	2	9/7～9/11
	隠岐郡	知夫村学校給食共同調理場	1	9/7～9/11
	安来市	安来市立十神小学校	1	9/7～9/11
	介護施設	松江市	介護老人保健施設 もちだの郷	1

《保育学科の実習施設・機関との連携》

保育学科では、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」「保育実習Ⅱ」については、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（厚生労働省雇児発第1209001号）」にもとづき、保育学科が実習施設を選定して実習指導委員会を設けている。毎学年度の始めに、この委員会の協議によって保育実習計画を策定している。

平成21年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県松江市 島根県東出雲町 島根県出雲市 島根県雲南市	松江市立美保関東保育所 法吉保育所、松江市立末次保育所、しらとり保育所、嵩見保育所、松江市立城東保育所、松江市立白湯保育所、松江ナザレン保育園、みどり保育所、袖師保育所、つわぶき保育園、松江保育所、虹の子保育園、松尾保育所、愛恵保育園、しらゆり保育園、古志原保育所 東出雲町立揖屋保育園 出雲乳児保育所、おおつか保育園、おやま保育園、たちばな保育園、ひまわり第1保育園 雲南市立大東保育園	1年前期・保育実習Ⅰ（保育所） 1年後期・保育実習Ⅱ
児童館・児童クラブ	島根県松江市	松江市立東津田児童館、松江市立八雲児童センター、竹矢児童クラブ、乃木児童クラブ、乃木第2児童クラブ、乃木第3児童クラブ、やくも児童クラブ	1年後期・保育実習Ⅲ
児童福祉施設等	島根県松江市 島根県出雲市 島根県浜田市 島根県隠岐郡 鳥取県米子市	松江赤十字乳児院、島根東光学園、双樹学院、松江学園、松江整肢学園、国立病院機構松江病院、島根県立わかたけ学園、しののめ寮 さざなみ学園 聖喙寮、こくぶ学園 仁万の里児童部 米子聖園天使園	2年前期・保育実習Ⅰ（施設）
介護福祉施設等	島根県松江市	長命園、生協ふれあいデイサービスセンター、生協ヘルパーステーション、ふれあいヘルパーステーション	2年前期・訪問介護員実習
幼稚園	島根県松江市 島根県安来市 島根県出雲市 島根県斐川町 島根県雲南市 島根県奥出雲町 島根県隠岐郡 島根県大田市 島根県江津市 島根県浜田市 島根県益田市 鳥取県米子市 鳥取県境港市 鳥取県東伯郡 鳥取県鳥取市 栃木県宇都宮市 兵庫県たつの市 岡山県津山市 岡山県備前市 広島県世羅郡 広島県三次市 広島県東広島市 広島県広島市 山口県防府市 山口県山口市 大分県大分市	松江市立川津幼稚園、松江市立内中原幼稚園、松江市立津田幼稚園、松江市立竹矢幼稚園、松江市立幼保園のぞ、松江市立大庭幼稚園、松江市立八雲幼稚園、松江市立佐太幼稚園、松江暁の星幼稚園 安来市立広瀬幼稚園 出雲市立平田幼稚園、出雲市立中央幼稚園、出雲市立塩冶幼稚園、出雲市立大津幼稚園、出雲市立川跡幼稚園、出雲市立高浜幼稚園、出雲市立禰原幼稚園、光幼幼稚園 斐川町立莊原幼稚園、斐川町立中部幼稚園、斐川町立西野幼稚園 雲南市立西幼稚園、雲南市立木次幼稚園 奥出雲町立三沢幼稚園 文化学院幼稚園 大田市立大田幼稚園 江津市立江津幼稚園 浜田市立石見幼稚園 益田天使幼稚園 米子みどり幼稚園、みずほ幼稚園 聖心幼稚園 琴浦町立八橋幼稚園 鳥取第三幼稚園、鳥取第五幼稚園 すすめ幼稚園 たつの市立小宅北幼稚園 津山市立鶴山幼稚園 備前市立香登幼稚園 世羅幼稚園 三次中央幼稚園 板橋さざなみ幼稚園 ゆうき幼稚園 右田幼稚園 山口中央幼稚園 ごとう幼稚園	2年前期・後期・教育実習

この実習施設・機関により構成された実習指導委員会で策定された実習計画により、実習全体の方針、実習の段階、内容、施設別の期間、時間数、学生の数、実習前後の学習に対する指導方法、実習の記録、評価の方法が明らかにされている。

「保育実習Ⅲ」と「訪問介護員実習」については、実習施設を保育学科が選定して実習指導委員会を設けている。実習生、実習施設の指導者、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら実習の効果を十分発揮するように努めている。

「教育実習」については、原則的に実習指導委員会を設けるが、学生が自主的に地元等の実習幼稚園を選定する場合は個別に対応している。実習生、実習幼稚園の指導教員、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら、実習の効果を十分発揮するように努めている。平成21年度に保育学科が連携して実習を実施した実習施設・機関は表のとおりであった。

#### 《その他の実習を兼ねた学生の自主的ボランティア活動》

松江キャンパスでは、教育課程と関わりが深く、地域連携活動として意義の認められる学生の自主活動に対して、「学校行事」として認め、学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険の適用対象として、地域連携・学習活動を支援している。本報告のこれまでの事項以外で、実習を兼ねた学生の自主的ボランティア活動は以下のとおりであった。

#### 平成21年度松江キャンパス その他の実習を兼ねた学生のボランティア活動

内容	機関・場所等	活動した学生	保険申請者(指導教員)
第36回小児糖尿病サマーキャンプにおけるボランティア	鳥取県西伯郡大山町 名和トレーニングセンターほか 平成21年8月2日～8月9日(8日間)	健康栄養学科2年11名	健康栄養学科教授 名和田清子
平成21年度夏季休業中の保育所におけるボランティア実習	江津市のぞみ保育園 松江すみずみ保育園 出雲市たちばな保育園 米子市福米保育園 松江本庄保育所 松江美保関西保育所 出雲市大社保育所 大田市相愛保育園 松江愛恵保育園 大田市久手保育園	保育学科1年11名	保育学科准教授 飯塚由美
平成21年度冬季休業中の保育所におけるボランティア実習	松江市虹の子保育園 益田市高津保育園 松江市ナザレン保育園	保育学科1年2名	保育学科准教授 飯塚由美
平成21年度春季休業中の保育所・幼稚園におけるボランティア実習	出雲市きんろう保育園 出雲市なかの保育園 米子市キッズタウン24かみごとう 米子市福米保育園 出雲市サンサン保育園 出雲市荒茅保育園 米子市あけぼの幼稚園 米子市えんげる保育園 斐川町出西保育園 松江みどり保育所 出雲市ハマナス保育園 出雲市神門第Ⅱ保育園 出雲市あすなろ第2保育園 益田市高津保育園 益田市川登保育園 出雲市ほくよう保育園 大田市あゆみ保育園	保育学科1年10名	保育学科准教授 飯塚由美